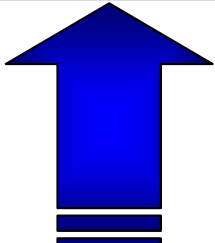


広域的社会におけるICTの役割について

ICTから広域的社会を眺めてみる

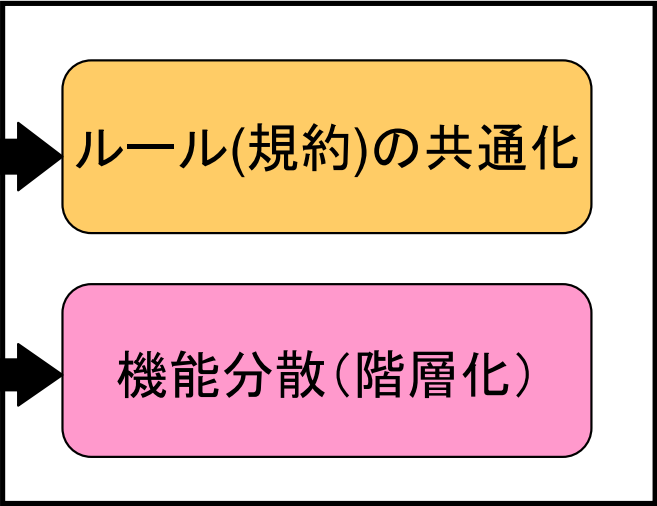
広域化とは



Internet Architecture

地域間の重複(無駄)をなくす

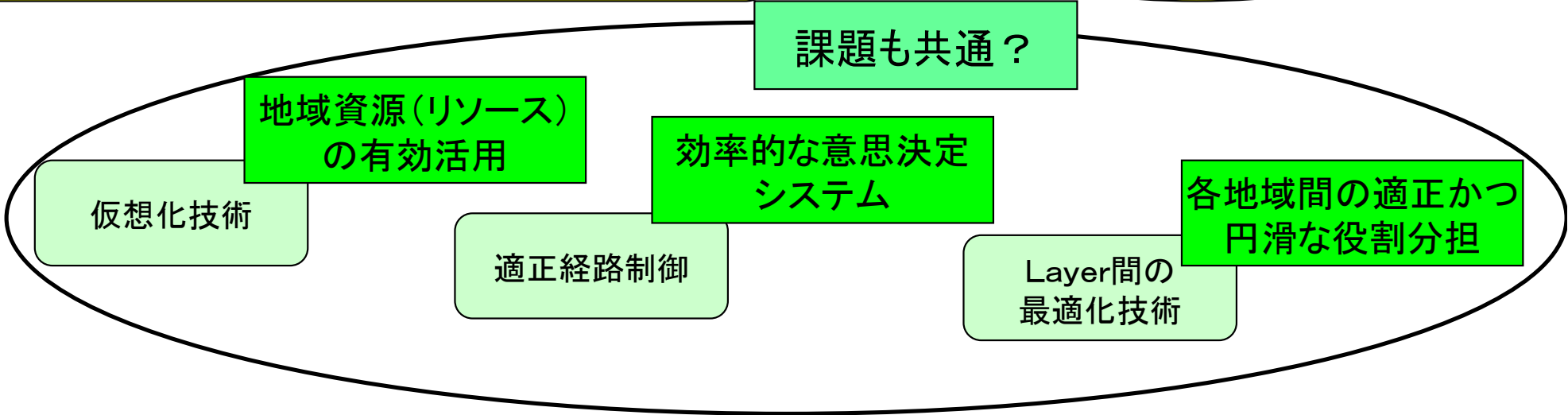
各地域において役割(機能)を分担



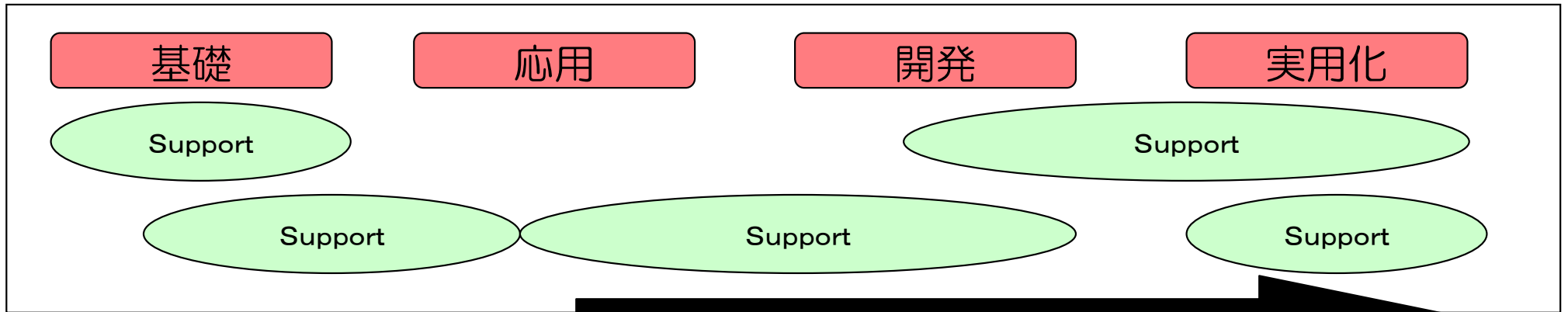
広域的社会を支えるツールとしてのICTだけでなく、ICT理論から広域的制度・システムを論じて(技術からの逆引き)いくようなアプローチもあって良いのでは

つまりはInternetの基本概念と同じ

課題も共通?



広域的社會におけるICT高度化支援



従来、地域として支援してきた部分が多い範囲

具体的な出口が見える技術

地域エリアはより拡大化(広域化)

【出口部分の重複回避・機能分散】
→ 応用開発部分の効率化

【地域がコントロールできる基盤技術】
→ ロングレンジでのサポートも検討

ex: プロジェクト期間の終了した研究機関等を
(広域)地域がファンドを創出して研究を継続
→ 地域としての研究へカスタマイズ

九州ブランドのICT基盤技術

ワイヤレスブロードバンド環境構築において

地域での技術開発要素

無線LAN

- ・5GHz帯域の開放
- ・MIMO (IEEE802. 11n)
- ・マルチホップ (IEEE802. 11s)

Wimax

- ・全国バンド免許取得 (2社)
- ・地域固定枠 (2.575GHz~2.595GHz)
(申請受付が始まりつつある)

次世代携帯

- ・3. 5G (HSDPA等) 普及
- ・4G 目前

地域特性に応じた最適な組み合わせにより
ワイヤレスブロードバンドを実現するのが
現実的 (トータルな技術開発)

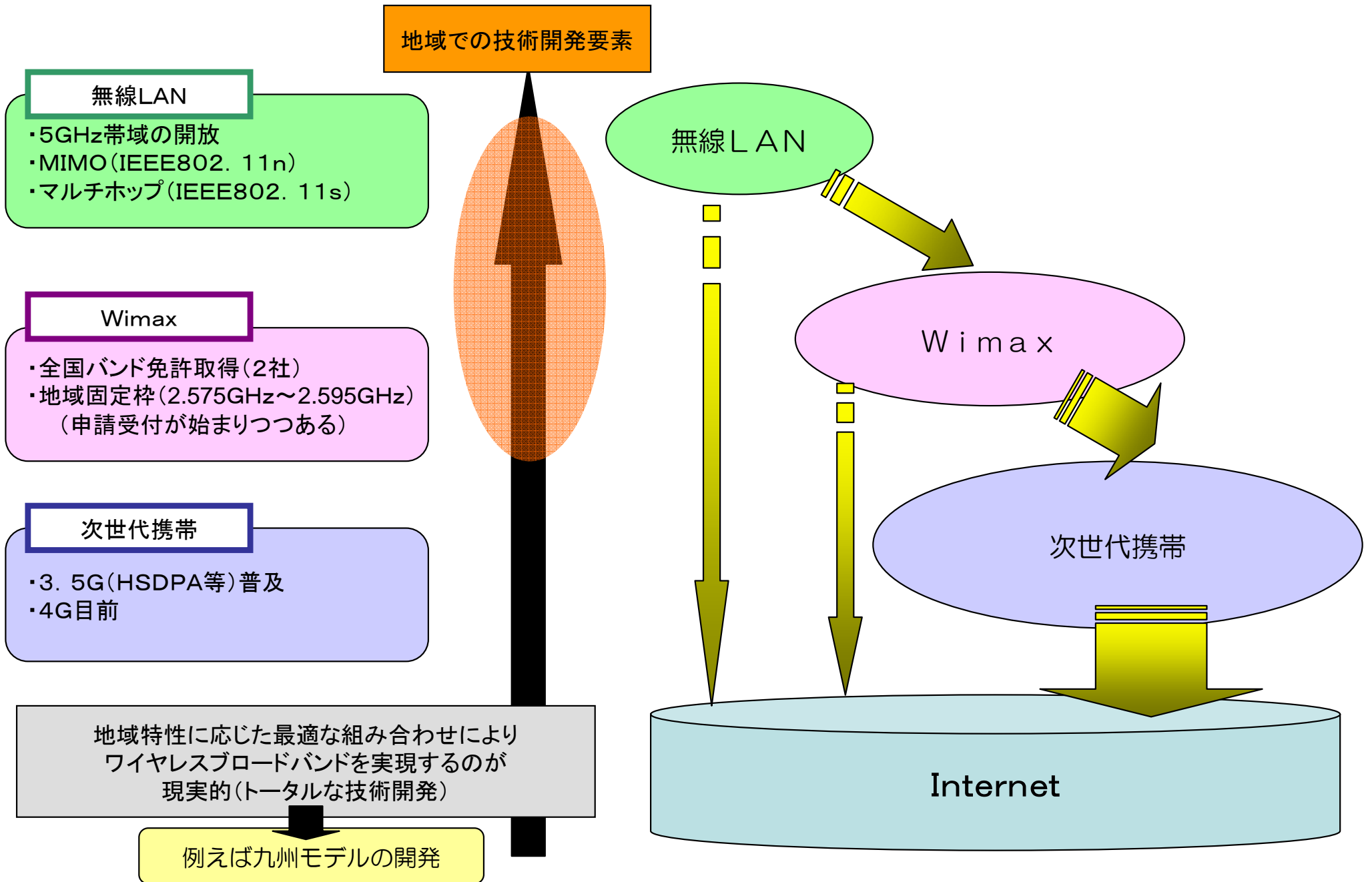
例えば九州モデルの開発

無線LAN

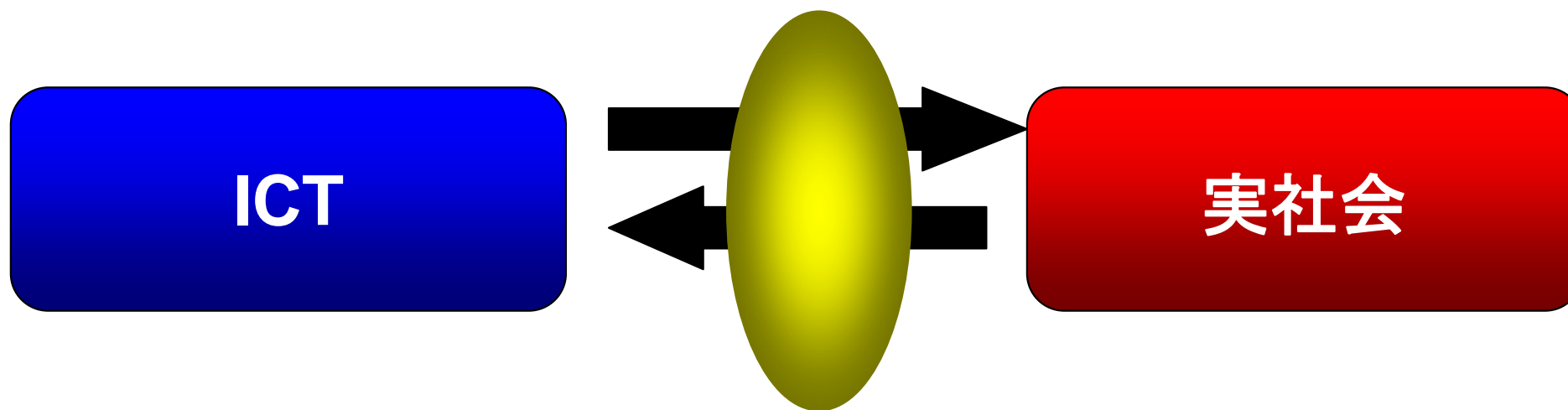
Wimax

次世代携帯

Internet



ICTと実社会の結びつきをもっと双方向に



地域社会の構成単位が変化していく中、
従来のような単なる技術活用・技術移転と
いった付加価値向上を目指すものだけでなく、
社会／ICT双方の個々のファクターが融合して
いくことによる新たな価値(社会)創造を
もっと検討していくことも大切では

